

## 総合交通体系(地域モビリティ確保)研修 受講成果・感想の一例

### 「総合交通体系と地域モビリティ戦略について」

国土交通省 総合政策局 総務課 政策企画官（総合交通体系担当） 有田幸司

- ・ 国土交通省の幅広い視野からの見方が出来て大変参考になった。
- ・ 交通政策分野の幅の広さを理解できた。

### 「地域モビリティ確保における新たな公共の役割について」

NPO 法人いわて地域づくり支援センター 事務局長 若菜千穂

- ・ 過疎地方の、自治体主体でなく、地域主体の成功例を聞くことができ、大変有意義であった。
- ・ 立場の違う方々の具体的な地域モビリティ対策の取り組みを知ることは重要。
- ・ 官・民で区分し難い新たな公共の役割については、自身の業務の関連性如何に関わらず、理解すべき内容であると感じた。
- ・ 現在の地域交通を支えるためのNPOの役割を理解するうえで重要であると感じた。
- ・ モビリティ確保における公共及びNPOの役割については、これからの地域との協働において重要になってくると感じた。

### 「都市交通政策の世界的潮流と地域モビリティ確保のための戦略」

京都大学大学院 工学研究科 准教授 松中亮治

- ・ 先進地として世界の都市での取り組みを知ることで知識を得られ今後の地域モビリティ対策に生かせると思います。
- ・ 世界的な先進事例については、過疎地域の交通には直結しないものがあつたが、知らない事例が多く参考となった。
- ・ 世界的潮流の下、我が国の公共交通を理解するといった意味で、非常に必要性を感じた。
- ・ 日常的には、意識する機会が少ない海外の事例に触れるよい機会であった。

### 「地域の総合交通体系構築の取組 ～京丹後市における交通まちづくり～」

京都府 京丹後市 企画総務部 企画政策課 主任 野木秀康

- ・ 交通政策における自治体職員の取組や役割を実体験から学ぶことは重要
- ・ 我が国の多くの地方で起こり得る問題について、自分の居住地域に関わらず、理解すべき内容であると感じた。
- ・ アイデアや取組み次第で、需要も増えるし、交通事業者の意識も変えることができる等という貴重な講義。
- ・ 講義の内容もしかり、加えて自治体職員の熱意・やる気度についても大いに参考になり刺激をいただける講義であった。

### 【現地視察】

#### 横浜市地域交通サポート事業実施地区（横浜市港南区）、 連続立体交差事業及び小田急小田原線複々線化事業

各教科の中で印象的だったのは、2日目の現地見学だった。内容は、横浜市の交通空白地へのコミュニティバス導入において、地域と連携し、地域主体による運営により、ランニングコストに対し、市の負担なしで導入を成功させたというものだった。

小田急線の複々線の事業においては現場視察を通じ、現場職員の生の声を聞くことができ、地域住民の苦情対応の方法やこういった大きな事業については相互のコミュニケーションや組織で対応することの大切さを学ばせていただいた。